

## 地域の声を学校運営に反映させる体制作り

高知県・大川村立大川小中学校

校長 黒瀬 忠行

### 1. 学校の概要

- 大川村 離島を除き、全国で一番小さい村（H24.7現在447人）
- 現状 全校30名（小17，中13）※山村留学生在が12名（小1，中11）  
6学級編成（小3学級－完全複式，中3学級）
- 特色 施設一体型の小中一貫校  
体制は1つ，行事も合同  
中学校教員が小学校の授業を担当（小6－国算，全学年－音図体家）  
9年間で育てる教育を目指す  
大川村唯一の学校  
地域の期待を一身に集める  
将来の大川村を担う人材を育てて欲しい ※大川小中学校の存在意義  
村の方針としてコミュニティ・スクールを目指す

### 2. コミュニティ・スクールへの経過

- H23. 2 第1回大川村コミュニティ・スクール設置準備委員会
- H23. 4 第2回大川村コミュニティ・スクール設置準備委員会
- H23. 6 第3回大川村コミュニティ・スクール設置準備委員会
- H23. 7 コミュニティ・スクール研修会（講師－大野見中・稲田校長）
- H23. 8 コミュニティ・スクール視察研修（四万十町立米奥小学校）
- H23. 11 第4回大川村コミュニティ・スクール設置準備委員会
- H23. 12 コミュニティ・スクール説明会（講師－文部科学省・松浦企画官）
- H24. 2 大川村立学校における学校運営協議会の設置等に関する要綱制定
- H24. 3 第5回大川村コミュニティ・スクール設置準備委員会（最終）
- H24. 3 学校指定申請書を村教委へ提出
- H24. 4 大川村教育委員会よりコミュニティ・スクールに指定される
- H24. 5 第1回大川小中学校運営協議会を開催

### 3. 学校運営協議会について

#### (1) 学校運営協議会の構成

- 保護者代表 PTA会長，PTA副会長
- 地域代表 保護者OB，保育園保護者，ふるさと村公社  
青年団，社会福祉協議会，地域コーディネーター
- 保育園代表 保育士
- 行政代表 総務課長，教育次長
- 学校代表 学校事務職員

合計 12 名（他に校長および担当教員が出席）

(2) 学校運営協議会の役割

- ・地域の様々な意見を吸い上げ、学校運営に反映させること  
学校が独善的に決めるのではなく、地域と相談して進める体制を作る
- ・地域で子どもを育てる教育環境作りを進めること  
学校と地域が一体となり、子どもの成長を大川村全体で見守る環境を作る

(3) 部会について

学校と地域の連携の在り方を研究するため、3つの部会を設置し、全教員と全委員が分かれて参加する。部会では、学校と地域が連携して行う具体的な取り組みを企画し、実践する。実践したことは何らかの形で発表したいと考えている。

- ・特産物生産部会 勤労生産学習により大川村の特産物生産を体験する
- ・総合学習部会 大川村の課題を知り探究する学習を組み立てる
- ・保小中連携部会 保育園と学校が連携して取り組む場を作る

(4) H24年度の年間開催計画

第1回（5／23）

H24年度基本方針の承認  
今年度の活動計画について  
学校行事について協議（修学旅行）

第2回（7／26）

教職員との意見交換会  
学校行事について協議（運動会）  
部会の開催

第3回（8／29、校内研と合同開催）

学習会の開催（学校運営協議会の役割について）  
講師－兵庫教育大・日渡円教授

第4回（10／24）

児童・生徒との意見交換会（児童代表・生徒代表が参加）  
学校評価アンケートの実施方法について  
学校行事について協議（キラキラフェスティバル・マラソン大会）

第5回（1／23）

学校関係者評価の実施  
来年度の計画策定に向けての意見交換（人事・教育目標・行事計画など）  
学校行事について協議（卒業式）

第6回（3／27）

今年度の取り組みのまとめ  
H25年度学校経営方針の承認

(5) 学校支援地域本部事業との関わり

学校運営協議会の2つの役割のうちの1つ、「地域で子どもを育てる教育環境作りを進めること」では、学校支援地域本部事業との関わりが深い。学校運営協議会では、毎回、学校支援地域本部事業の活動状況について報告し、委員から意見をもらうようにしている。

※地域コーディネーターが学校運営協議会の委員として参加している

#### 4. 学校運営協議会に期待すること

- (1) 校長の後ろ盾になってもらう
  - ・校長が策定する学校経営方針を承認してもらう  
3月中に承認を得て、新年度を迎える
  - ・大きな方針転換を行う際に、意見をもらう  
[例] 修学旅行 目的・ねらい・実施の方向性など  
※具体的な行き先は保護者と協議
- (2) 地域の意見を学校に伝えてもらう
  - ・協議会の場で意見をもらったり、アンケートや意見交換会等により様々な立場からの意見を吸い上げてもらう
  - ・学校関係者評価を行ってもらう  
[例] 小中一貫校のメリットをさらに活かす取組を進めて欲しい  
小6での一部教科担任制の実施  
学校行事の小中合同開催（卒業式）  
土曜日の活用
- (3) 地域で子どもを育てる教育環境作りに貢献してもらう
  - ・大川村の未来を支える人材育成に協力してもらう（体験活動、交流活動）
  - ・地域を元気にするために学校ができることを考えてもらう  
[例] マラソン大会 コース変更（大川村中心部で実施）  
試走を含め、安全確保ボランティアの協力

#### 5. 平成24年度の取り組み

- (1) コミュニティ・スクールを推進する研究指定事業  
文部科学省「コミュニティ・スクールの導入促進に関する調査研究事業」の研究指定を受ける。
  - ・2年間をかけて、学校と地域の連携の在り方を研究する
  - ・校務分掌に地域連携担当を位置づける ※加配教員が担当
- (2) 学習会の開催  
講師を招聘し、学校運営協議会委員と教職員が一堂に会して学習した。（8／29）  
講師 兵庫教育大学大学院 日渡 円 教授  
演題 「学校運営協議会の役割について」
- (3) 部会の活動
  - ・特産物生産部会 謝肉祭での梅漬けの販売，花取り踊りの伝承
  - ・総合学習部会 「村の駅」での体験活動を通して大川村の産業の課題を探る
  - ・保小中連携部会 運動会での保育園児参加，保育園運動会での運営協力など
- (4) 中間発表会  
研究1年目の取組について、担当教員が保護者・地域住民に向けて発表する。  
発表に合わせて、取り組み紹介リーフレットを作成する。
  - ・キラキラフェスティバル（文化発表会，11／23）の中で実施
  - ・村産業文化祭との合同実施により行う

※会場を学校とせず、大川村山村開発センターとする